

第2学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文、説明文ともに、文章を正しく読み取る力に個人差がある。 相手を意識して「話す」こと、大事なことを落とさないようにしながら「聞く」ことに課題がある。 事柄の順序に沿って文章やつながりのある文章を書くこと、句読点、かぎの使い方を理解し、適切に使うことに課題がある。 漢字や片仮名の読み書きの定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序や大事だと言う言葉に着目し、根拠をもとに想像を広げながら読む力を育てる必要がある。 事柄の順序に気を付けながら、自分の気持ちや考えを話したり、相手の話の内容に興味を示しながら最後まで聞いたりする力を育てる必要がある。 順序の構成を考えたから書くこと、順番を表す言葉を入れて文と文をつなぐこと、句読点、かぎの使い方の基本形を身に付けていくことが必要である。 書き順や字形に気を付けて正しく書くことについて繰り返し指導することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序に沿って、文章の中の大事な言葉や場面の様子、登場人物の行動などにサイドラインを引いたり、書き抜いたり、想像を広げたりしながら、読み取りを深めていく。 「話し方」「聞き方」のポイントを指導したりよいところを認めたりして、日常的に話す聞く機会を増やして慣れるようにする。また、朝の会などで、スピーチをさせたり、質問に答えさせたりする活動を取り入れ、「聞く」「話す」力をつけていく。 はじめ・中・終わりの順序を意識してメモを作ってから文章にするなど、段階的に指導する。順序を表す言葉を使って文章を書くことに慣れるよう、日常的に取り入れる。句読点、かぎの使い方など、繰り返し練習する。 学習ノートやドリルで繰り返し丁寧に練習し、正しく定着できるように促す。また、必要に応じて復習を行い、定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算などの基礎学力において補充を必要とする児童が見られる。 文章問題の題意の理解力に課題がある。 物差しを使って直線を引くことや、長さを正確に読むことに課題がある。 時間の学習では、時、分の関係の理解が不十分な児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を確認しながら、数の仕組みや加減の計算が身に付くよう指導する必要がある。 文章を読み取る力、立式の根拠を説明する力が身に付くようにする。 物差しの正しい使い方が身に付くようにする。 具体的な生活場面と結びつけながら、時間や時刻の理解ができるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを活用し、習熟に応じた個別指導を取り入れる。 必要に応じて半具体物操作を取り入れて理解を深める。 問題文を読み、分かっていること、求めることに着目させ、問題場面をイメージして立式できるようにする。 自分の考えを文や絵、図で表現したり、根拠となる考えを説明したりする活動を取り入れる。 物差しの押さえ方や鉛筆の使い方などを繰り返し指導する。 物差しで直線を引いたり、長さを測ったりする活動を十分に取り入れる。 実際の生活場面で、時刻や時間を読み取る活動を取り入れる。 時計の模型を使い、実際に動かしながら、針の動きや時間の移り変わりを指導していく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物や動物の観察や身近な人々と直接関わる活動を通して気付いたことや思ったことを、自分の言葉で、具体的に表したり振り返ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や動物、身近な人々と直接関わる活動を通して、気付いたことや思ったことを表現する力や振り返る力を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法を例示したり書くポイントに気付いている児童の文を紹介したりして、書き方を示す。 観察しながら、身の回りの様子や変化等に注目できるように見るポイントを伝えていく。 学習カードを取り入れ、全体で共有し、表現力や振り返る力を伸ばす活動を取り入れる。

<p>音 楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変意欲的であるが、一生懸命表現するあまり、やや地声になり、少々乱暴な歌唱表現になることがある。 ・鍵盤ハーモニカの演奏では、指使いに気を付けながら演奏できるようになってきたが、まだ思うように指が動かず、指使いを意識して演奏することが苦手な児童も少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声に気を付け、どのように歌うと「きれいな歌声」になるのか、歌声や楽器の「音色」に対する意識を高めていく。 ・鍵盤ハーモニカの演奏には、指使いを工夫することで、曲の流れや曲想が変わることを感じ取り、指使いに対する意識を高めていき、なめらかな演奏が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい歌声に接したり、楽曲の気分を感じ取って歌い方を工夫したりする過程の中で、丁寧な歌い方、きれいな発声や発音に気付くようにする。また、きれいな発声や発音のために、歌詞を読むことにも取り組んでいく。 ・朝の会や音楽の時間に、友達と歌声を聴き合い、自分の歌声を客観的に聴く活動を取り入れ、自分の歌声に注意しながら歌う習慣を身に付ける。 ・鍵盤ハーモニカの練習時には、階名唱と共に指番号唱も取り入れ、常に指使いを意識しながら指導する。
<p>図 工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくのびのびと自分の思いを作品に表すことができる児童が多いが、発想や技術面では個人差がある。発想を広げ、道具や材料を上手に扱えるよう指導することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく意欲的に取り組む姿勢を持続させながら、豊かな発想を生かし上手に道具や材料を使って表現できる指導をしていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が道具の基本的な扱い方を毎時間丁寧に示す。また授業の間に児童の参考となる作り方や発想を紹介し、よさを認め合い広めていく。 ・個人差がでないようスモールステップで学習を進め、一人一人に対する教師の言葉かけを丁寧に行う。
<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・握力、投力に課題がある児童が多い。 ・ルールを守り、勝敗を受け入れる態度に課題がある。 ・運動の仕方を工夫して取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びを通して体の使い方を覚え、運動能力が身に付くよう指導していく必要がある。 ・ルールを守ってゲームに取り組む、勝敗を受け入れる態度を身に付ける必要がある。 ・動き方の工夫とは何かについて理解させて取り組ませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら握力や投力を高めることができるよう、鉄棒や雲梯などの固定施設遊び、ボールを投げる運動遊びの時間を計画的に設ける。 ・よい動きのポイントを示し、めあてをもたせて運動に取り組めるようにする。 ・ルールを示し、勝敗にふさわしい態度（スポーツマンシップ）について話し合う場面を設ける。 ・具体的な声かけを行い、模範となる態度は大いに称賛する。 ・チームで作戦を立てたり、よい動きを紹介したりして、工夫するよさを示していく。 ・教師や友達の動きのまねをし、動き方の工夫に繋げることができるよう言葉かけをする。
<p>道 徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親切や思いやりの心が育ってきているが、他者への関心がまだ低いことに課題がある。 ・学習したことを自分のこととして考え、生活の中で生かしていくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童の発言を促したり、ペアやグループでの話し合いをしたりして考えを広げ、多様な意見を認めていく必要がある。 ・児童にとって身近な資料や説話を工夫し、実践力を身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相互の話し合いの視点を明確にし、話し合いしやすいようにする。また、自分の考えを発表しやすい学級づくりをし、友達との対話を通して自分の考えを広げられるようにする。 ・自身の日常の体験を想起させながら学習に取り組ませる。また、日常の様々な場面において、具体的な指導を積み重ねる。 ・役割演技や動作化を学習内で用いることで、登場人物の思いを考えられるよう指導する。